

本號ヨリ卷末掲載規定中ニ正誤申込期日ヲ載セルコトニシマシタ故、寄稿者諸彦ノ御一覽ヲ乞フ。

○會員募集ニ就テ

本會モ會員諸彦ノ御援助ニヨリ、漸次會員數モ増加イタシマシテ健全ナ發達ヲ遂ゲツ、アリマスノハ誠ニ御同慶ノ事ト存ジマス、サテ本年四月ノ總會ニ於テ前會長入澤博士ヨリ申上ゲラレマシタ會員募集ノ事ニツキマシテハ其後會員諸君ノ御勧誘ニヨリ次第ニ新會員ノ數モ加ハリツ、アリマスガ、法人組織ノ完成、雜誌ノ改善等種々重要ナル計畫ヲ前ニ控ヘテ居リマスノデ、此際特ニ會員募集ニ大々的努力ヲナス事ニ申合ハセ諸方面ニ活動ヲ始メテ居リマスカラ各會員諸君ニ對シテ一層ノ御盡力ヲ御依頼イタシマス、直接御勧誘下サルレバ最モ都合デアリマスガ、唯御心當リノ人ノ氏名、住所サヘ本會事務所へ御通知下サルレバ當事務所ヨリハ現及前會長ノ名ト御紹介者ノ名前トヲ以テ勸誘狀其他ノ案内ヲ發送イタシマス、本會ノ發達ハ獨リ本學會ノ爲ノミデナク我國ノ結核撲滅事業ノ發達ニモ貢獻スル所が大デアリマスノデ是非トモ一臂ノ御盡力ヲ仰ギタイノデアリマス。

大正十五年九月二十四日

會員諸君

日本結核病學會

○坂口、佐藤兩幹事出發

本會幹事東大助教坂口康藏博士ハ今回文部省ヨリ歐米視察ヲ命ゼラレ去ル九月十三日出發セラル。

同ジク本會幹事內務省衛生局佐藤正技師ハ過般歐米出張ヲ了ヘテ歸朝早々、國際聯盟情報局次長トシテシンガポールニ赴任セラル。

兩氏共本誌ノ爲海外ヨリ有益ナル通信ヲ寄セラル、筈ナリ切ニ御健康ヲ祈ル。

○正誤

第四卷 第七號 第八號 田澤氏論文中正誤

頁	行	正	誤
七四六	六	豫防的治療及治療的豫防	豫防的治療及治療的豫防乃至豫防的治療
七四八	一四	(物理學的療法ニ屬スル以外ハ簡潔ニ)	簡潔ニ
七五三	表ノ二	症候去リテ安定セルモノ	症候安定セルモノ
七五四	五	此人工「ツベルクリン」反應	此反應
七五四	七	入リテ	出テ
七五五	一六	コトモ一程度迄可能テ	コトモ可能テ
七五七	表	高シ、低シハ平均(度)ノ欄内ニ入	高シ、低シガ同數ニ迄係カルハ誤

七五八	表一 肺炎浸潤患者ノ月經前體溫上昇ノ一例	表ノ説明脱漏
七六〇	四 最大一・二度	最大一・二度
七六〇	表 直後ト變ハ此列全體ハ上ノ列全體 ハリナキト上下入レ代ヘルト分 例數	一時間後ノ 平常注目サレザル 日々同シ時刻ニ
七六一	表ノ後三 一時間目以後ノ	一時間後ノ
七六一	表ノ後九 平常ノ溫度表ニ現ハレザル	平常注目サレザル
七六三	五日ハ異ナルモ同シ日刻ニ	日々同シ時刻ニ
七六四	表 直後ト變ハ此列全體上ノ列全體 ハリナキ例數ト上下入レ代ヘ	
七六六	表 此表ノ正誤七六九頁ニ在リ	
七八四	四 始メテモ	初メテモ
七九一	七 レル 標題ノ下ニ、「風及濕氣問題」ト入	
八四七	表ノ後一 寒氣ハ心配ガ無ク暑氣ハ	寒季ハ心配ガ無ク暑季
八五五	六 「冬季ノ開放療法ニ於テ」ヨリ以下 別行トス	
八五八	三 (第四十七表人工太陽燈照射病例) ハ表ノ説明トシテ八五七頁ヘ移ス	
八六〇	九 (日光浴ノ條下ノ寫眞參照)ヲ抹消 ス	
八六一	末 第五十一表	第五十二表
八六七	八 日新醫學社	日新醫學社
八六九	九 混合感染混合菌	混合感染徽毒菌
八七一	一〇 攝氏〇・一度	攝氏一度
八七六	四 高橋長樹	高橋長樹

第四卷 第七號 鴻上氏論文 正 誤

七一二頁第二表(其ノ一)ニテ非働性血清析VI、アンチゲン析Vノ0.1及0.3ヲ削除ス。